

令和5年度 生活調べアンケート 第2回調査結果

実施目的

児童生徒の心身の状態について、教員の日頃の見守りに加え、客観的な指標を持ち、多面的に捉えることで、学校生活への不応の未然防止・早期発見をすべく「生活調べアンケート」を実施した。

対象

令和6年1月10日～1月24日（タブレットを使いGoogleフォームで回答）

実施期間

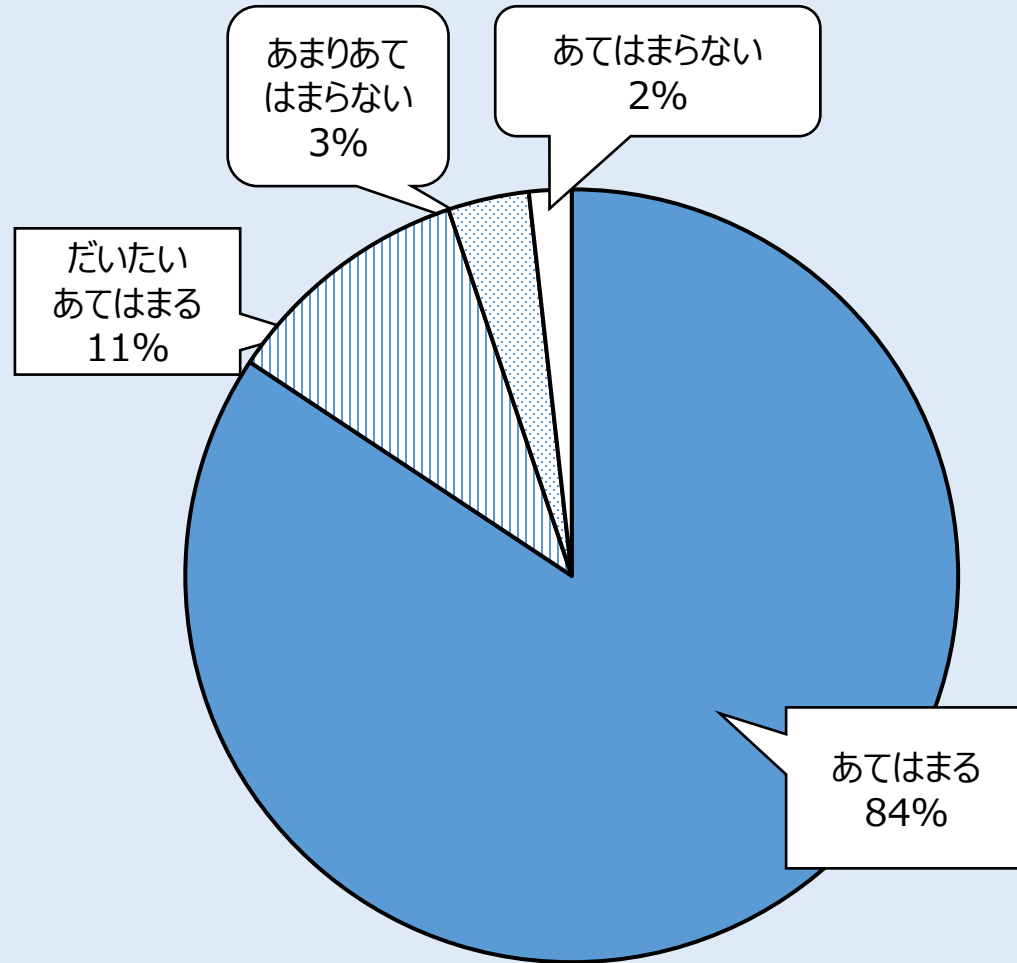
奈良市立学校 小学生（小1～小6）
中学生（中1～中3）

アンケート調査内容

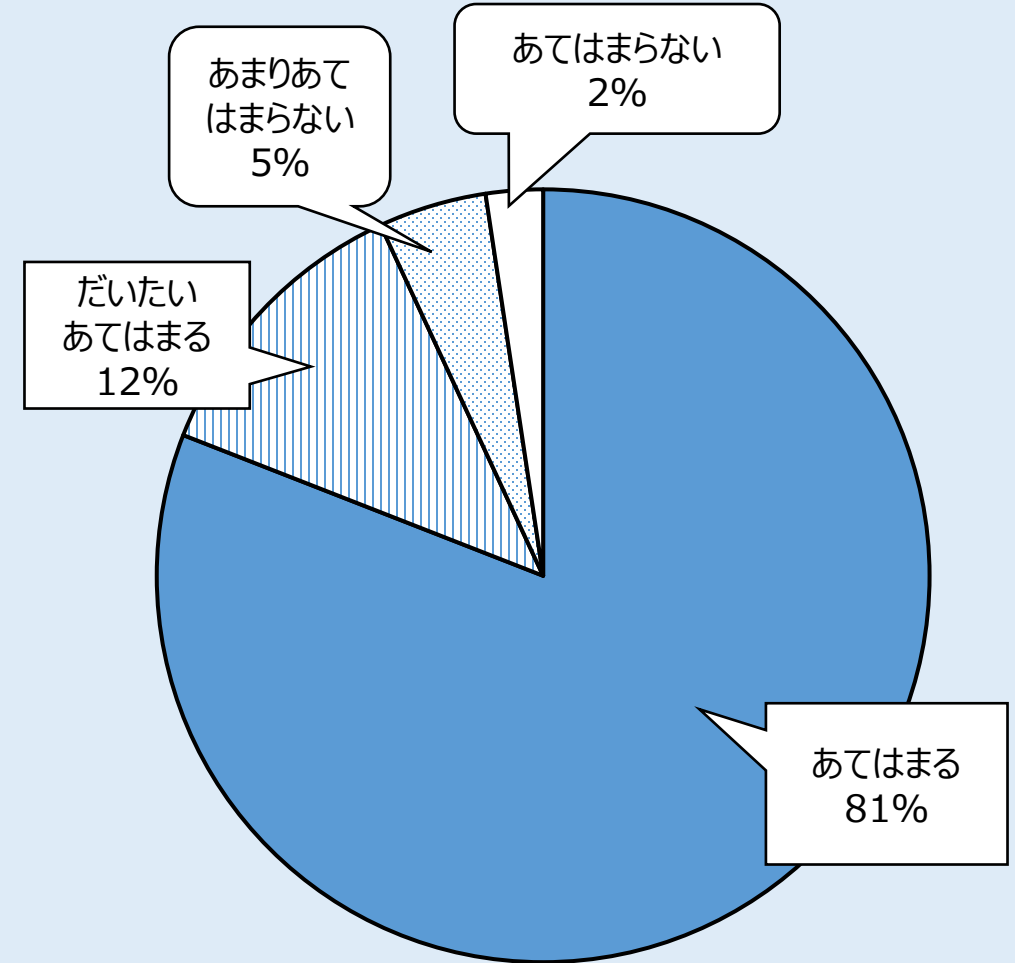
大項目	小項目
①気持ちの安定度について	5項目
②生活の安定度について	4項目
③困ったときにSOSが出せるかについて	2項目
④マスク着用について	1項目
質問1	朝ごはんや昼ごはんを食べている
質問2	なかなか眠れないことがある
質問3	勉強に集中できないことがある
質問4	むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっとなったりする
質問5	何事もやる気がおきない
質問6	頭やお腹が痛いなど、体の調子が悪いことがある
質問7	体を動かすなど、よく運動している
質問8	毎日が楽しい
質問9	悩みごとを話せる人や場がある
質問10	困ったときに、学校の先生や家の人に頼ることができる
質問11	学校や家で何か不安を感じたことがある
質問12	常にマスクをしていないと不安である

質問1 朝ごはんや昼ご飯を食べている

小学生

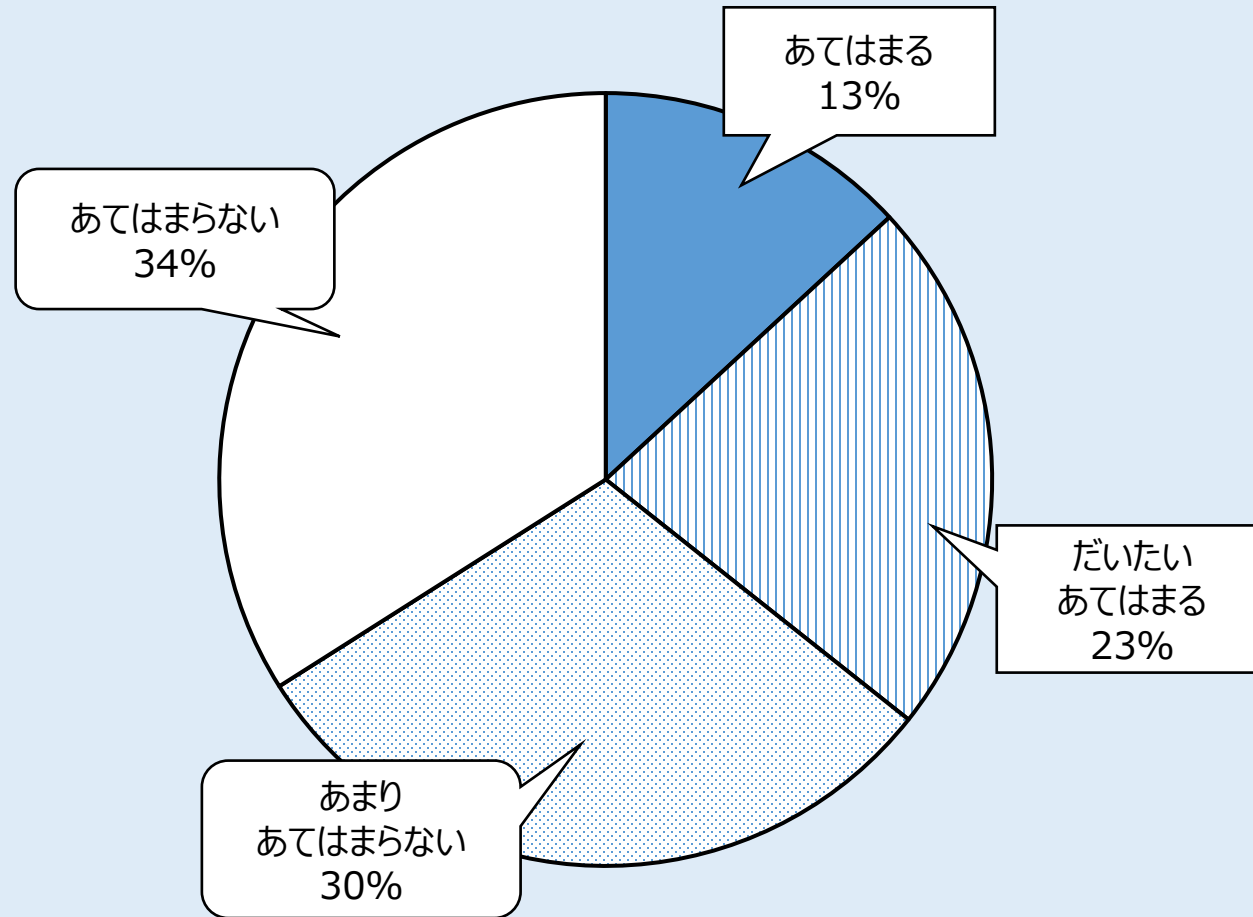


中学生

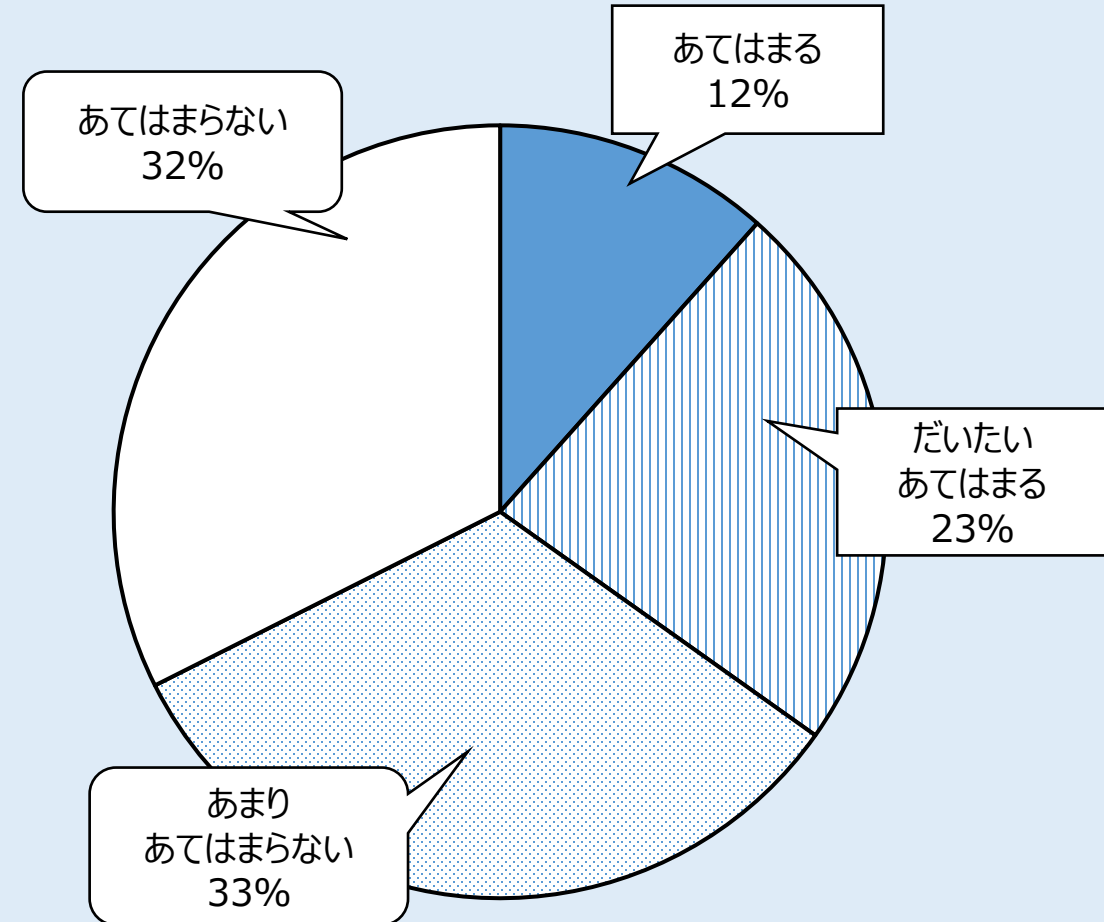


質問2 なかなか眠れないことがある

小学生

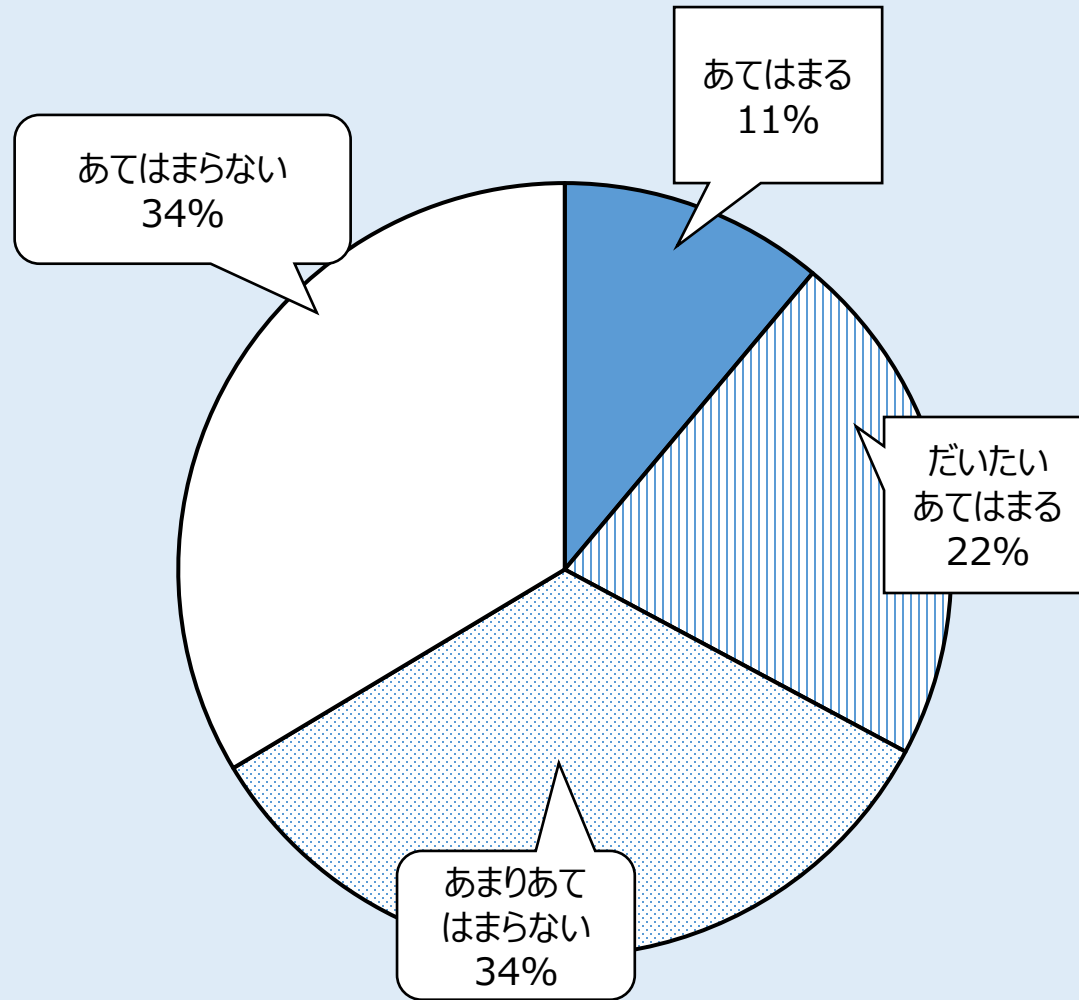


中学生

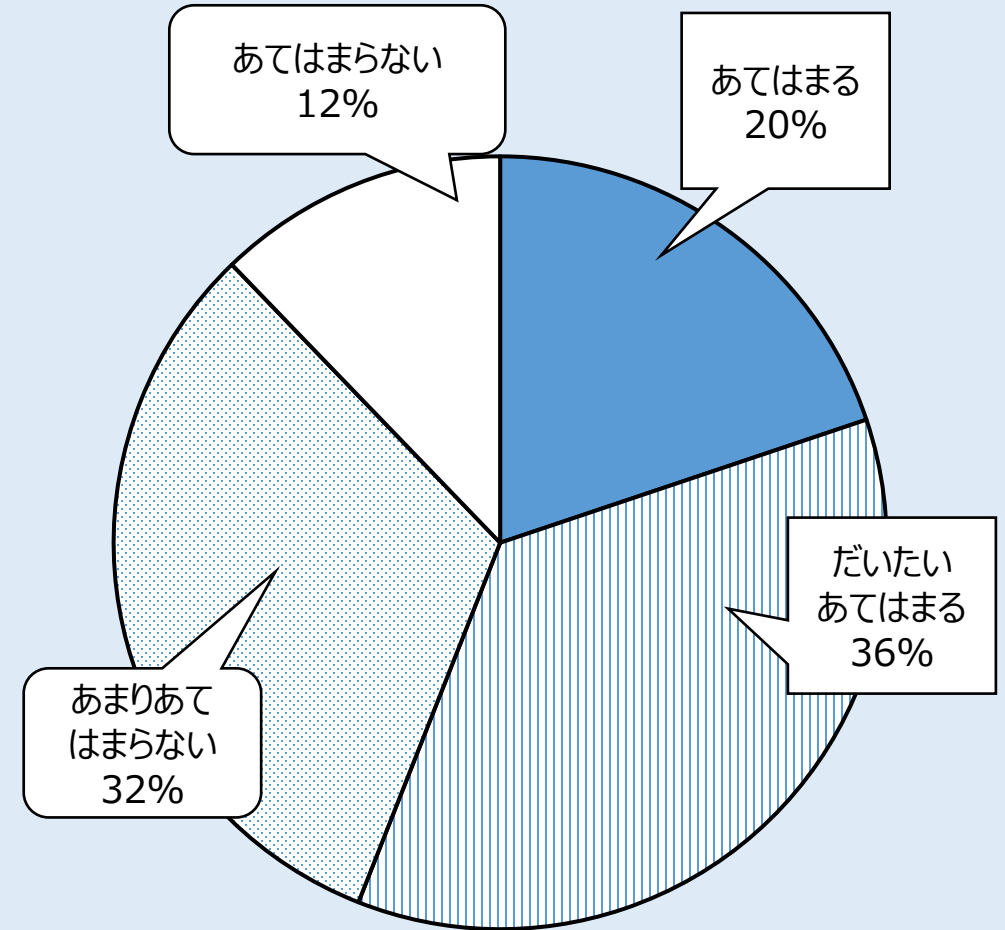


質問3 勉強に集中できないことがある

小学生

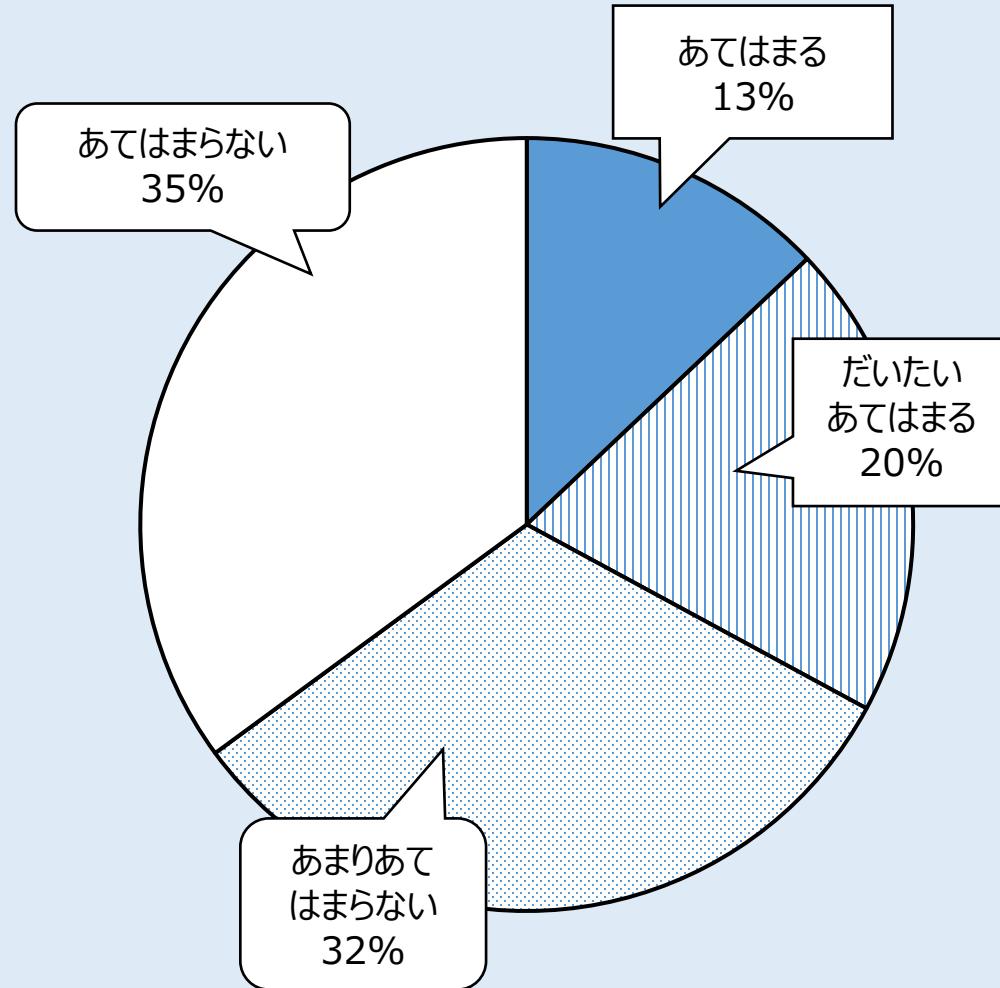


中学生

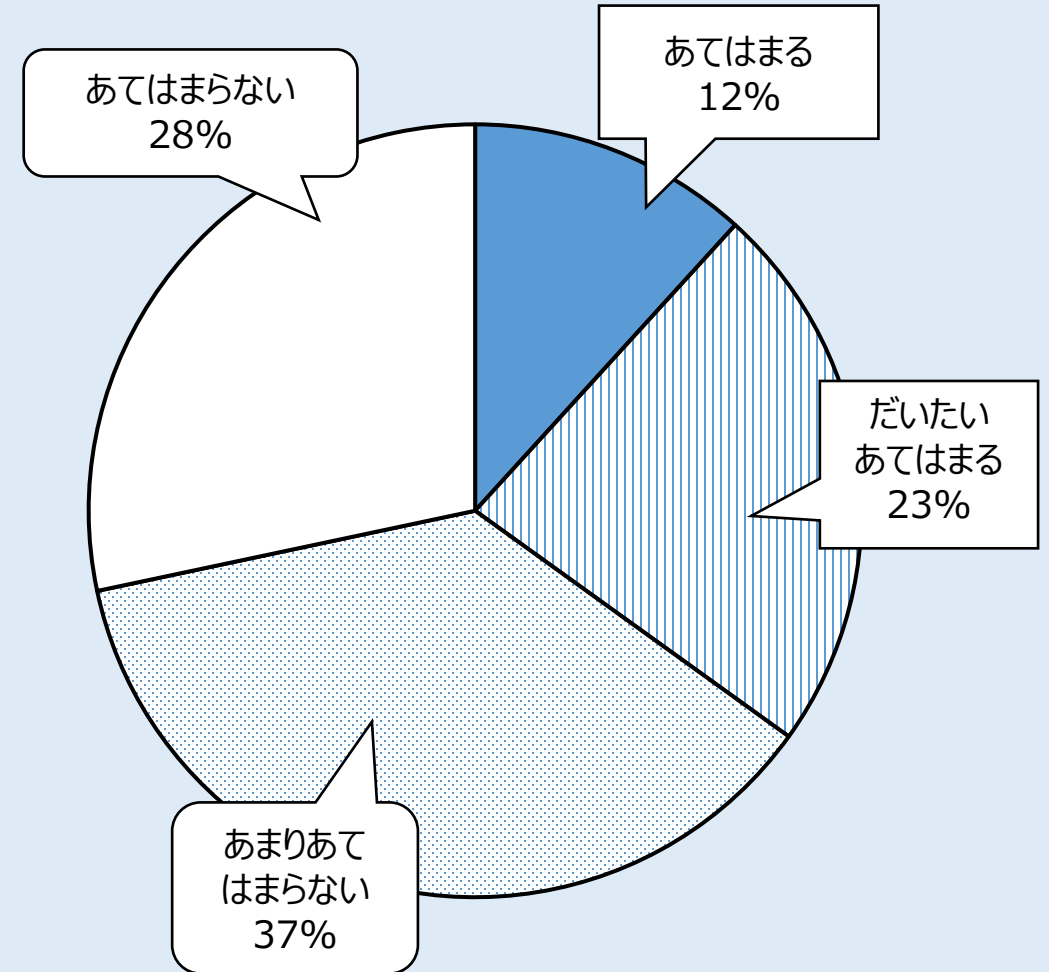


質問4 むしゃくしゃしたり、イライラしたり、かっとなったりする

小学生

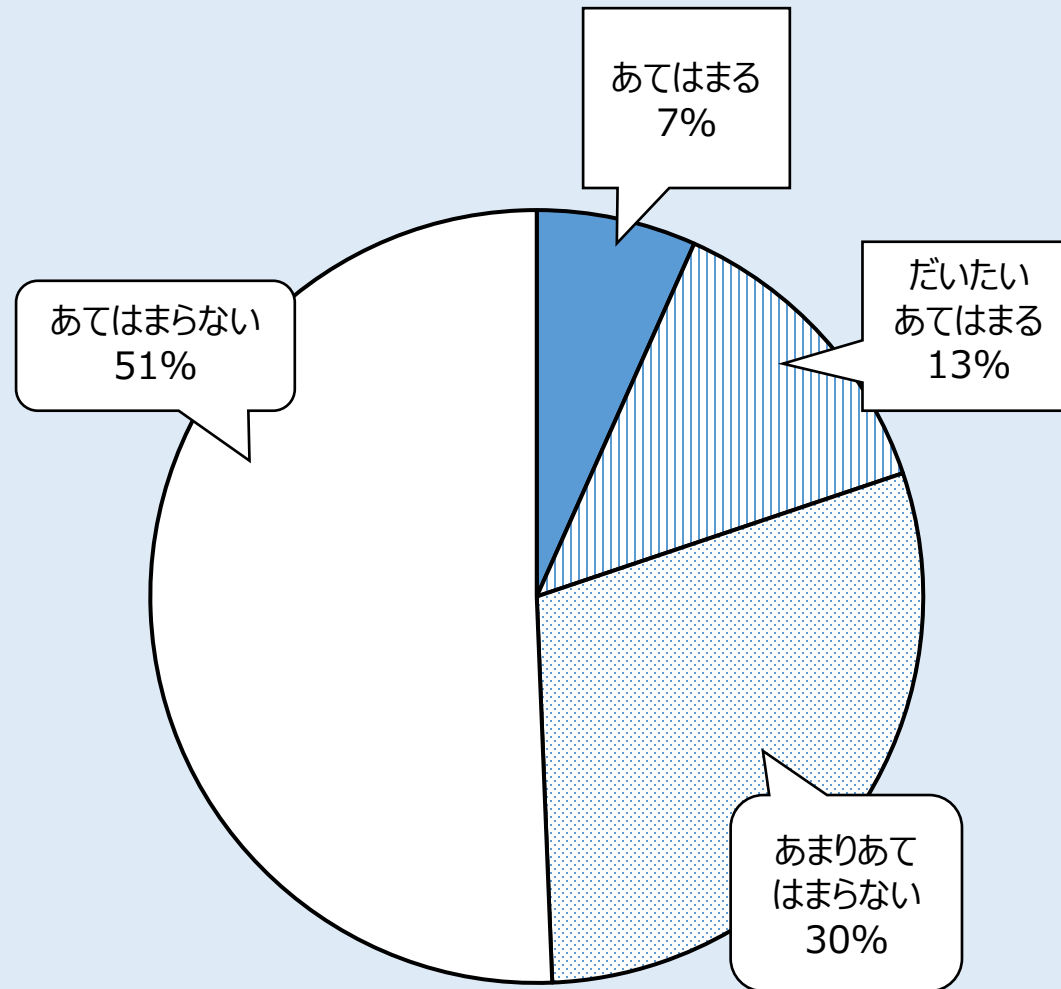


中学生

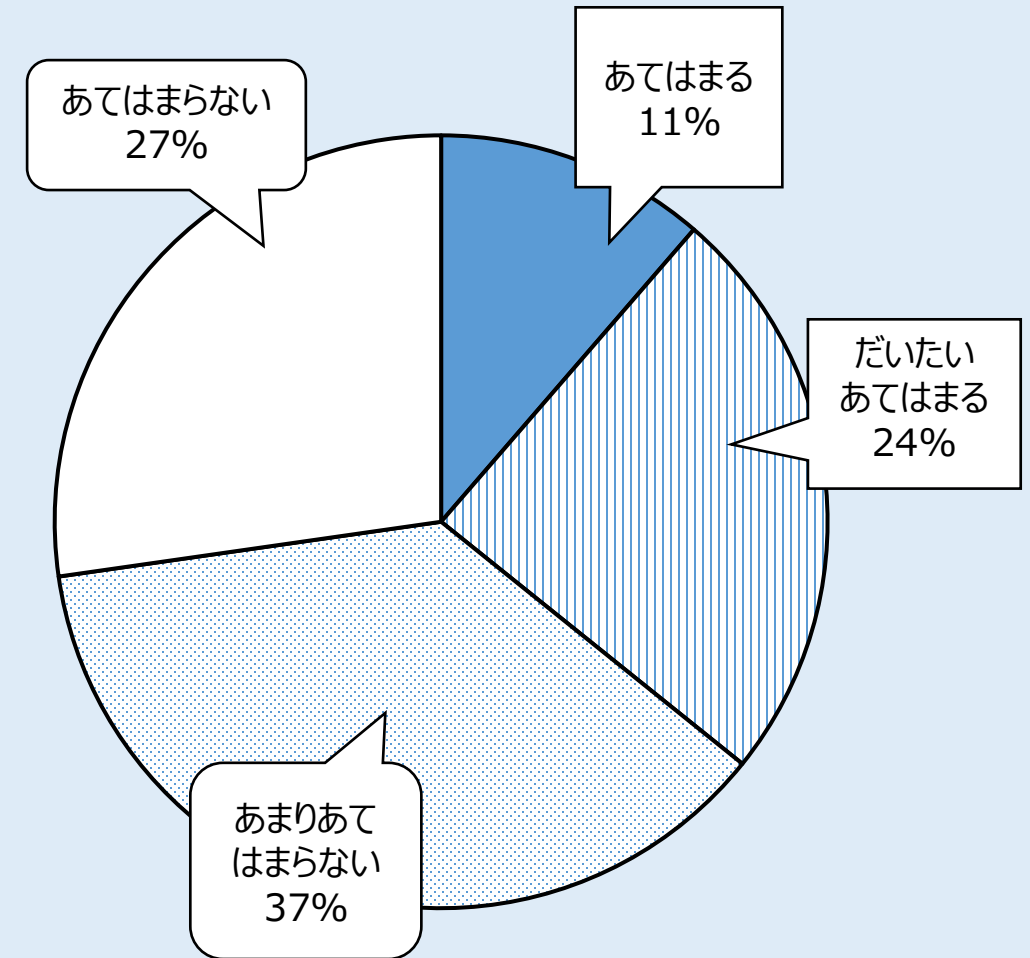


質問5 何事にもやる気がおきない

小学生

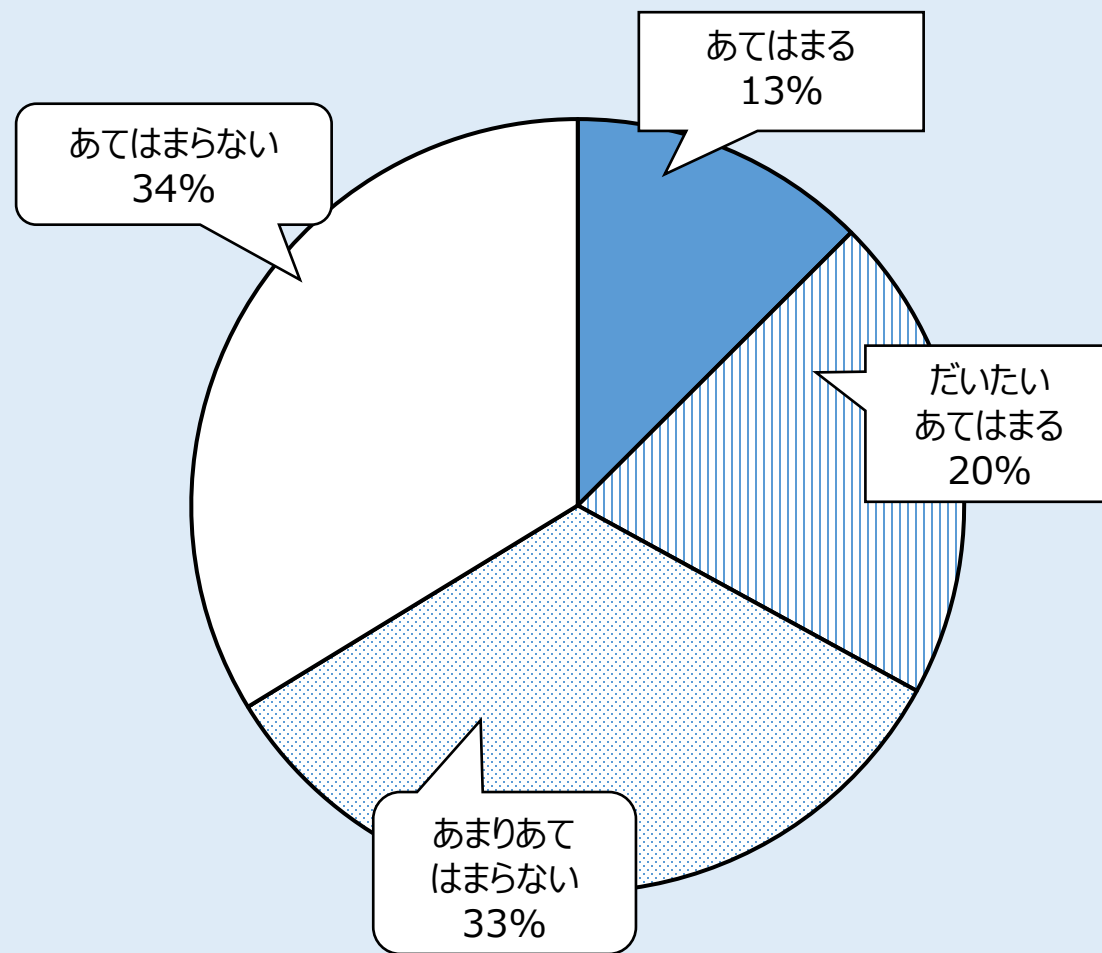


中学生

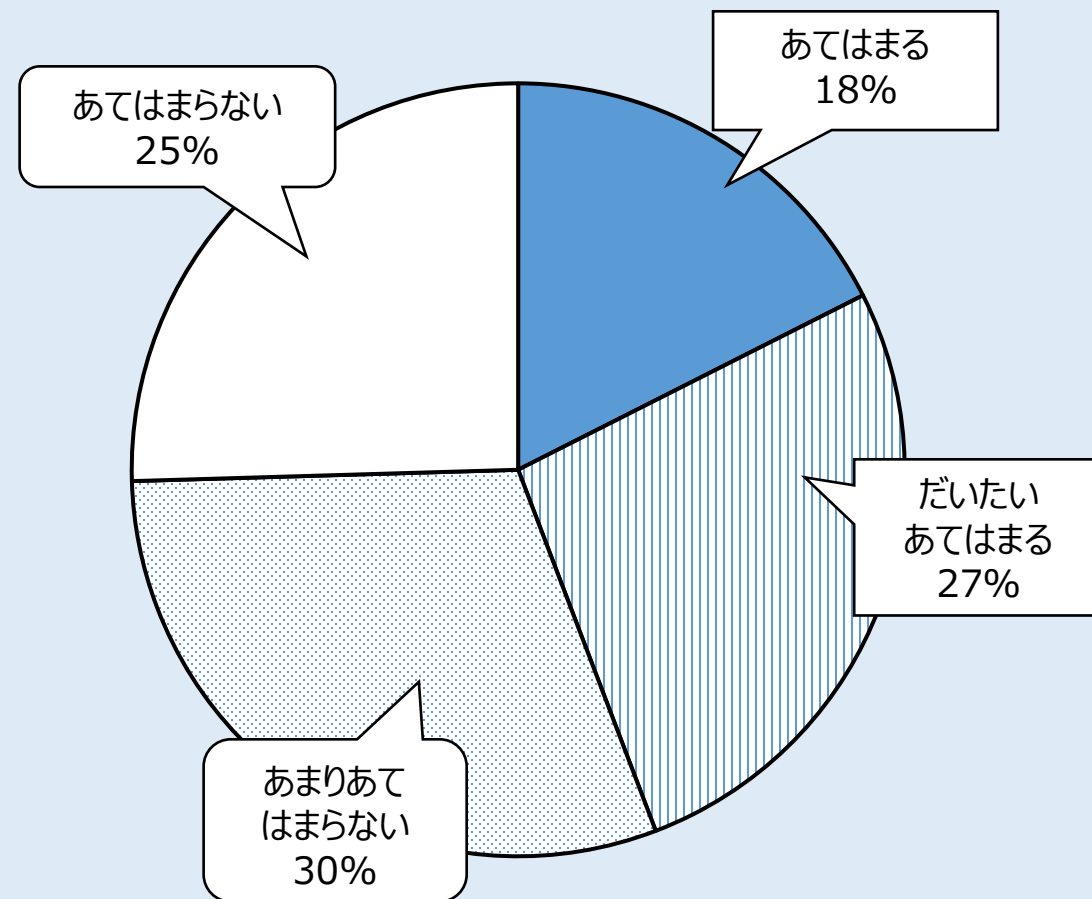


質問 6 頭やお腹が痛いなど、体の調子が悪いことがある

小学生

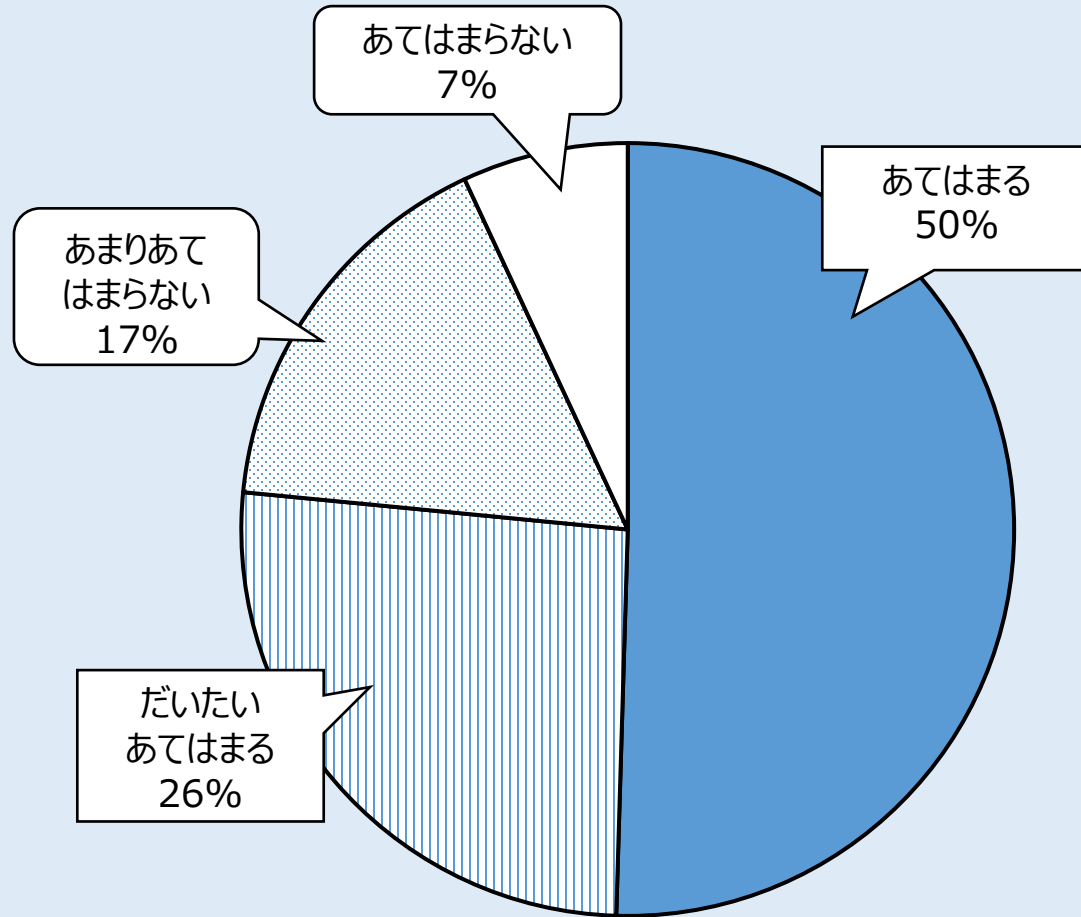


中学生

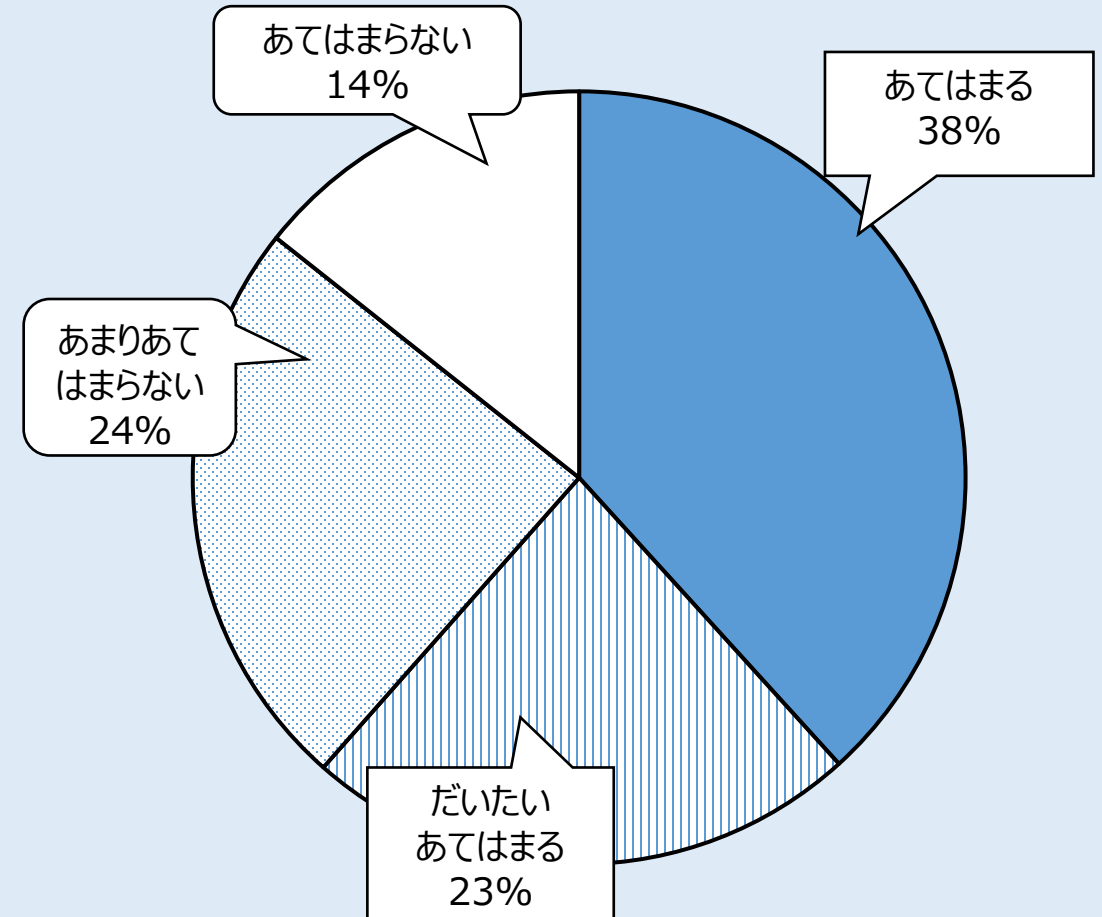


質問7 体を動かすなど、よく運動している

小学生

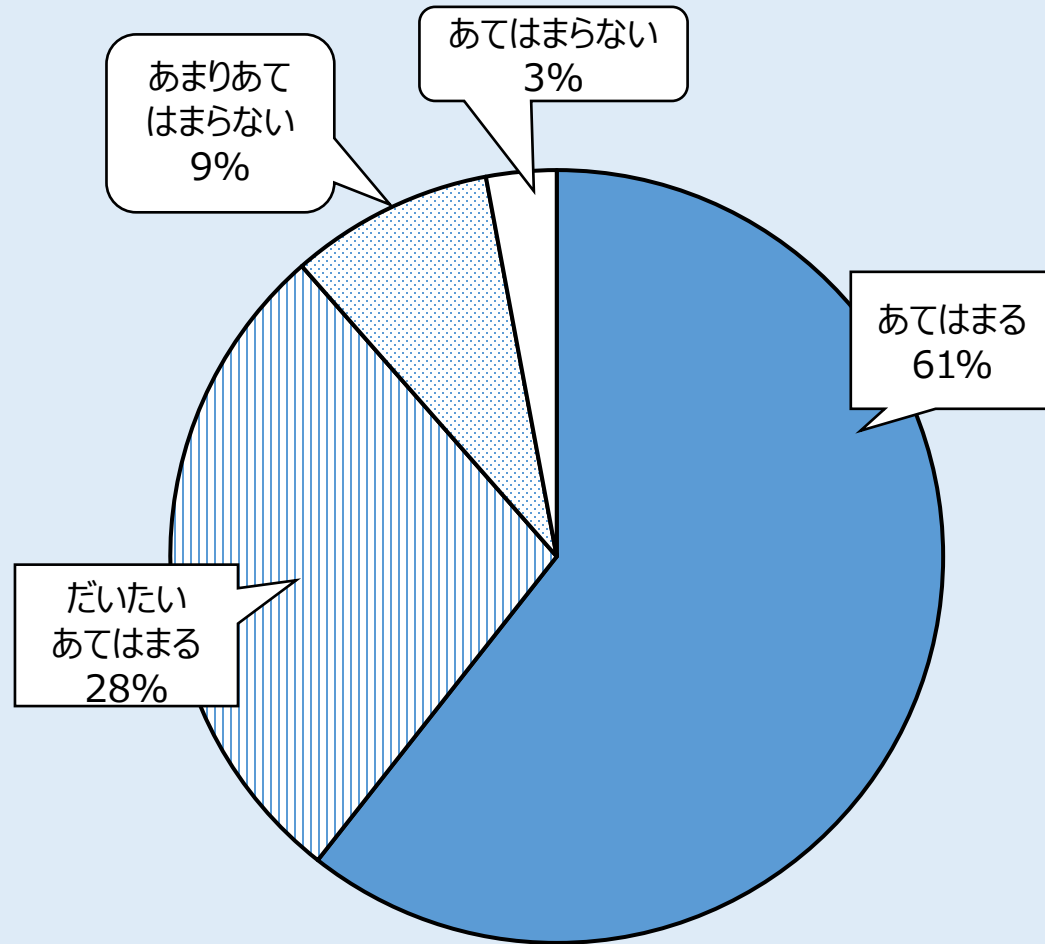


中学生

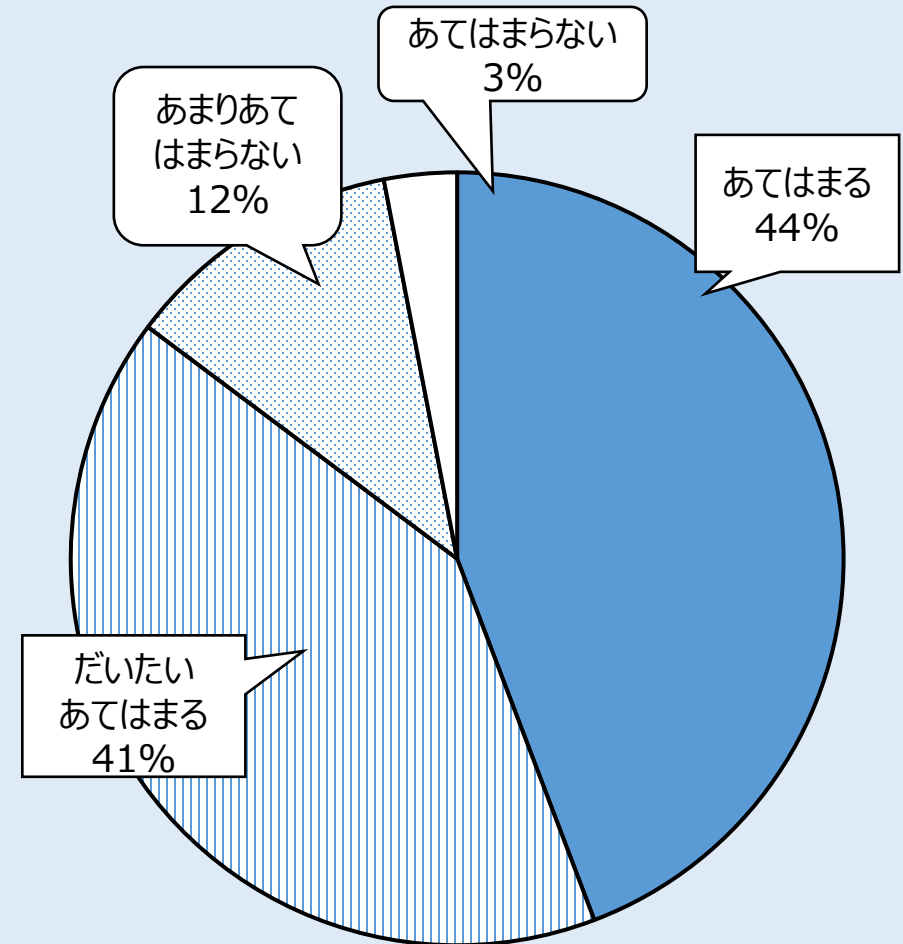


質問 8 毎日が楽しい

小学生

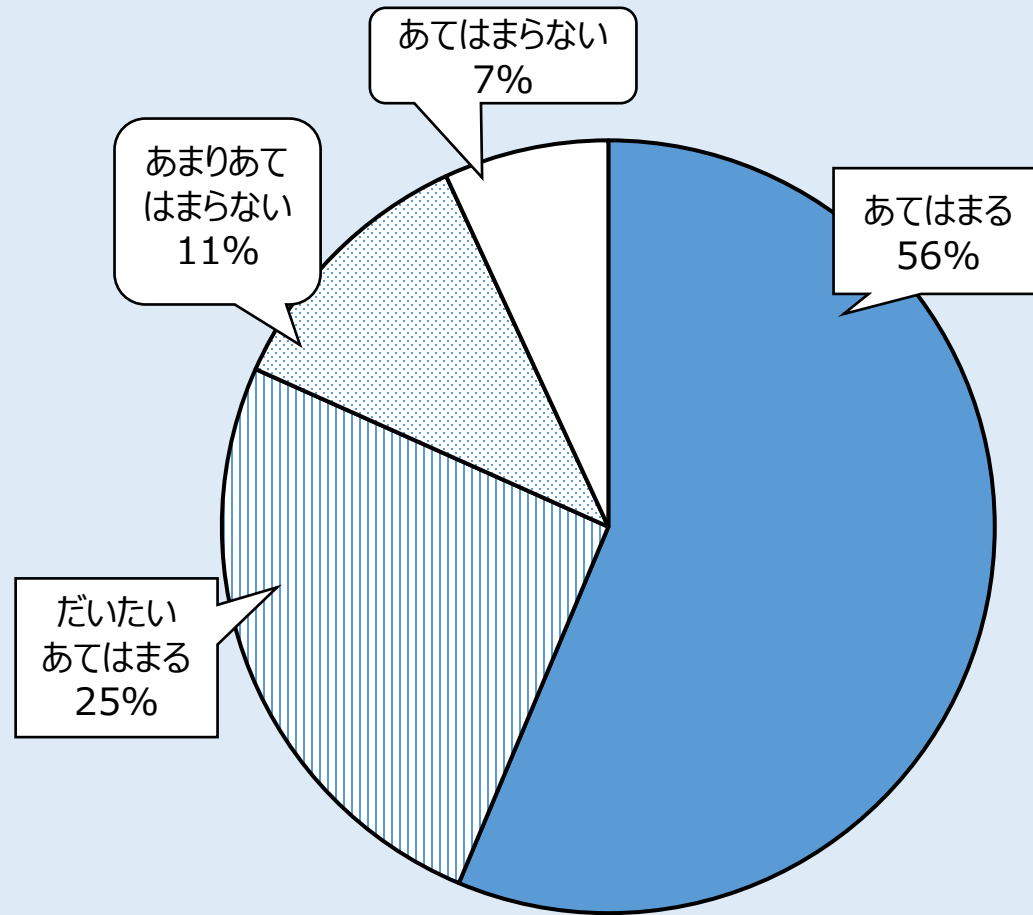


中学生

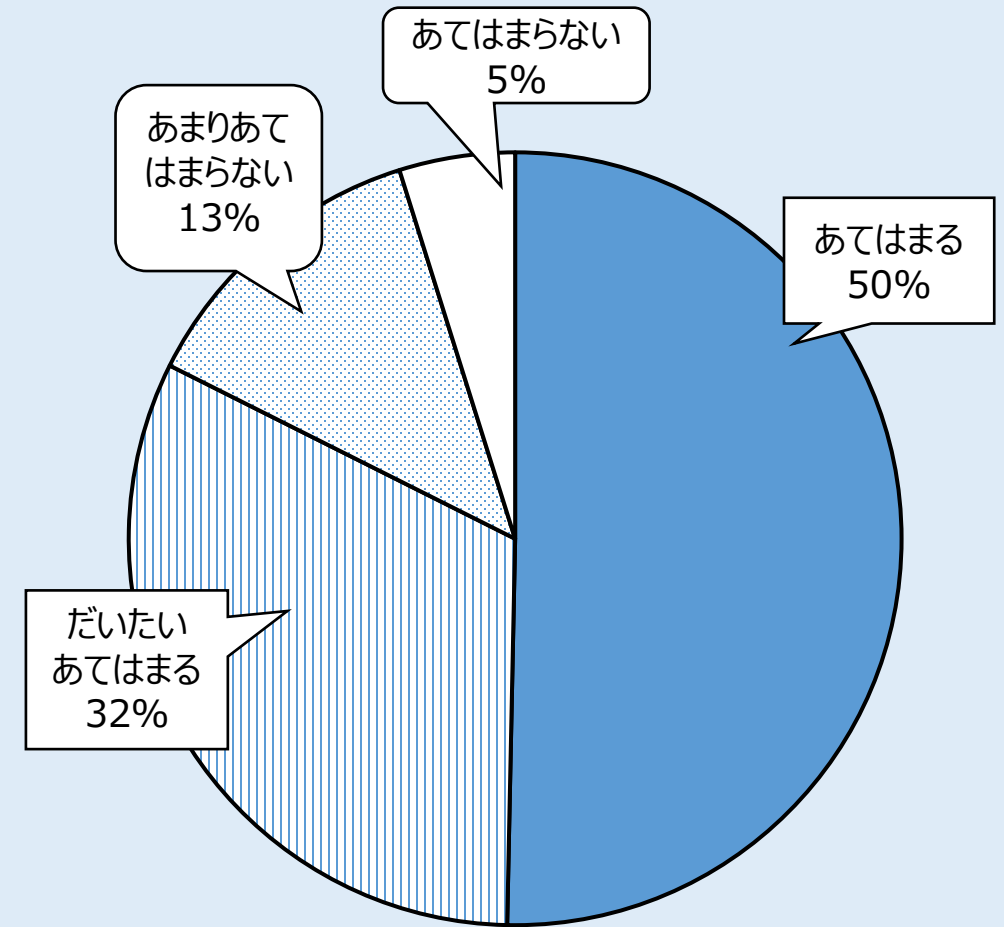


質問9 悩みごとを話せる人や場がある

小学生

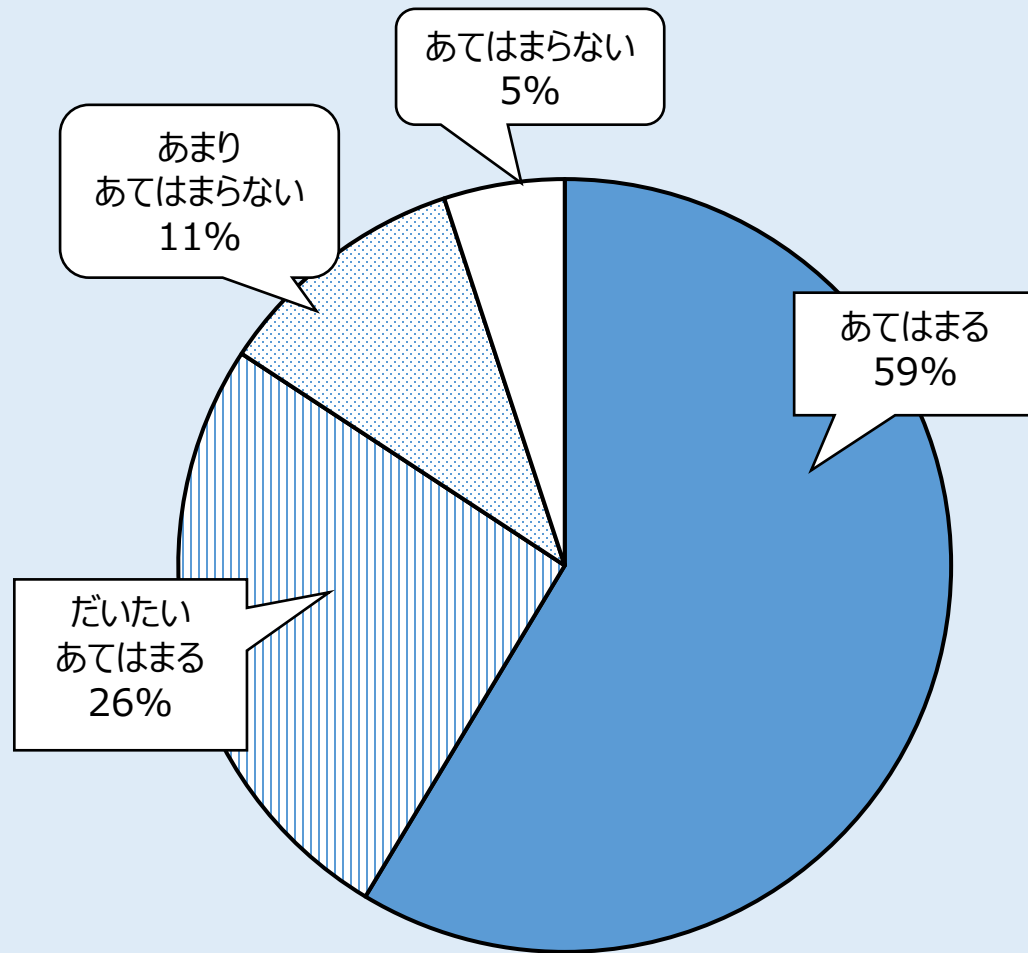


中学生

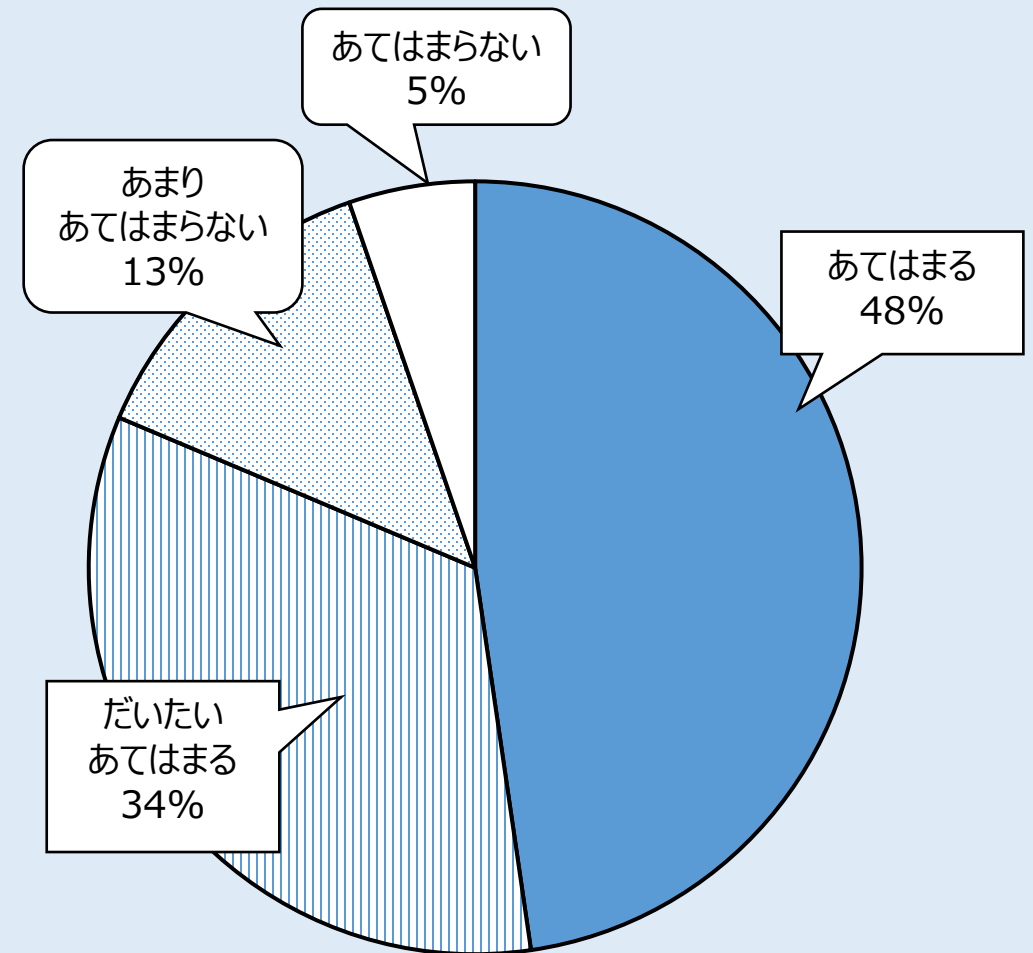


質問 10 困ったときに、学校の先生や家の人に頼ることができる

小学生

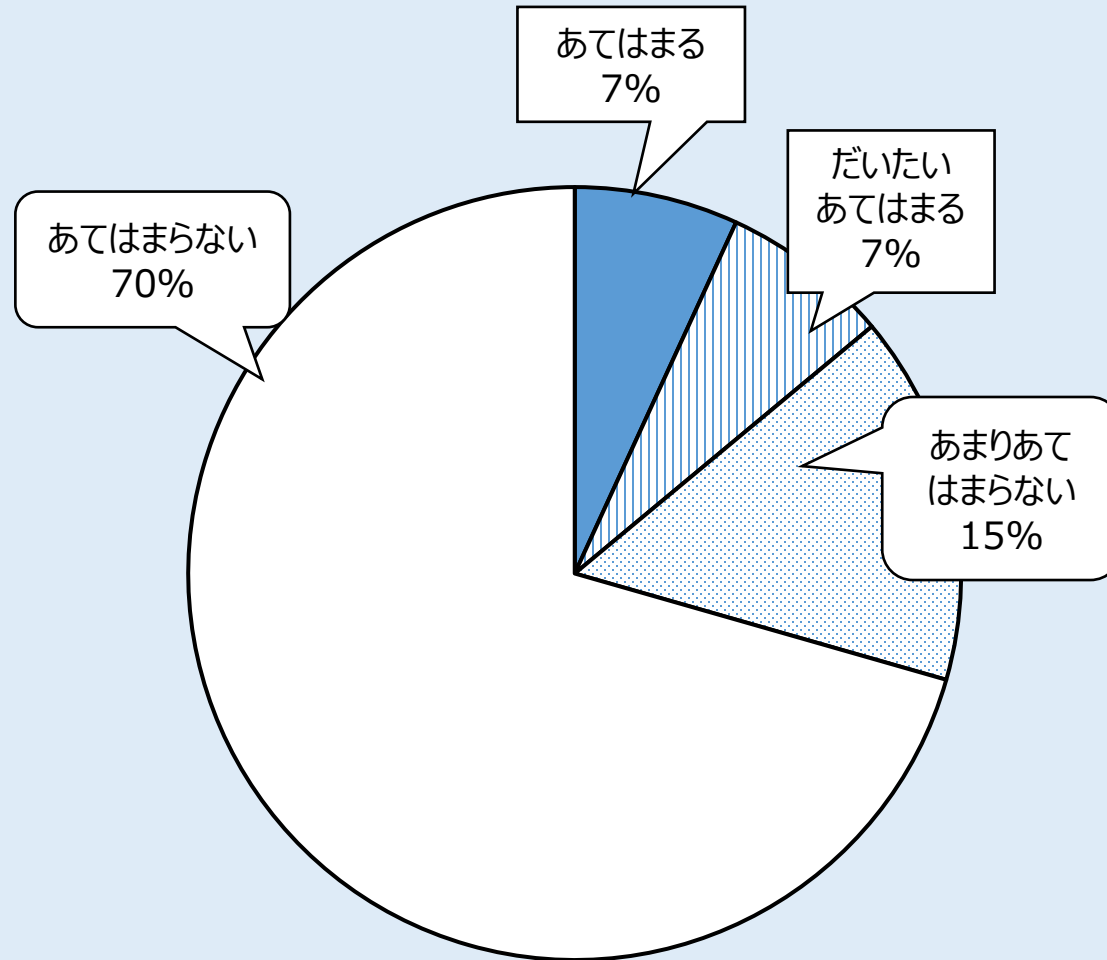


中学生

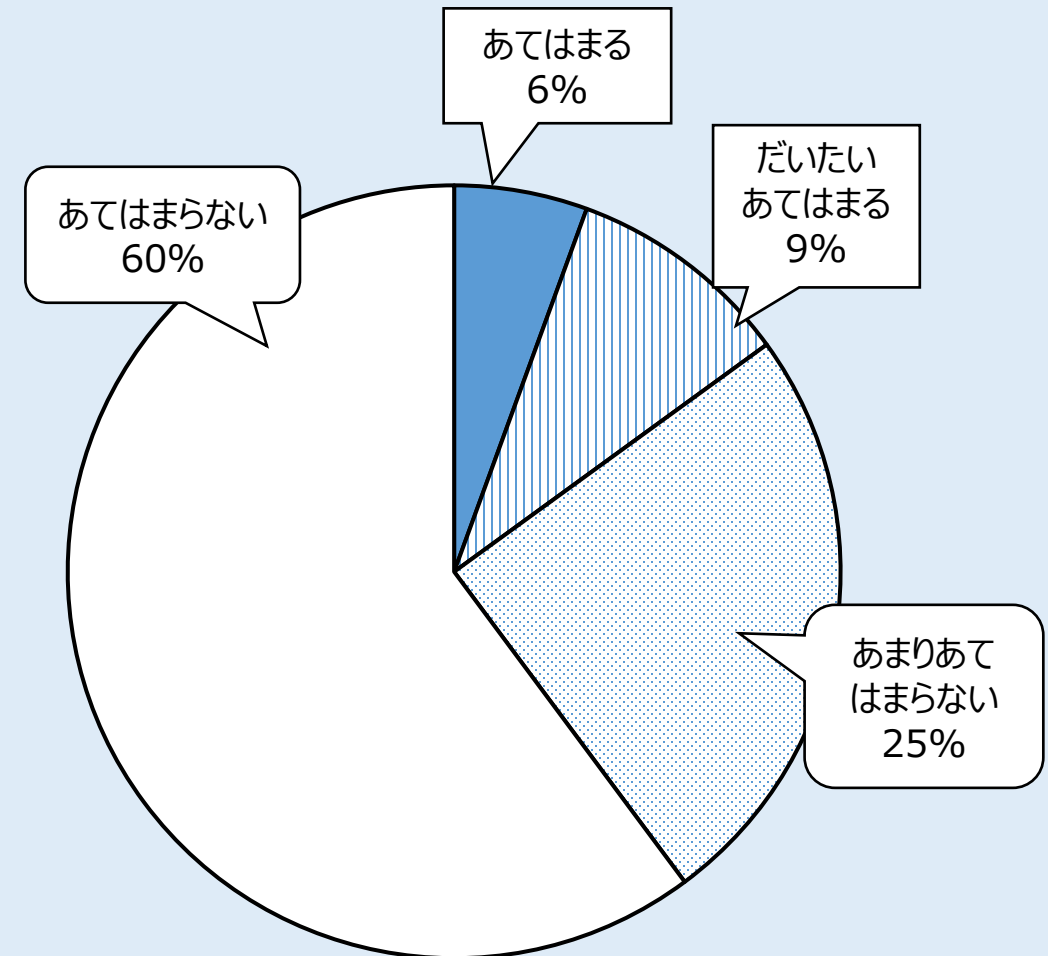


質問 1 1 学校や家で何か不安を感じたことがある

小学生

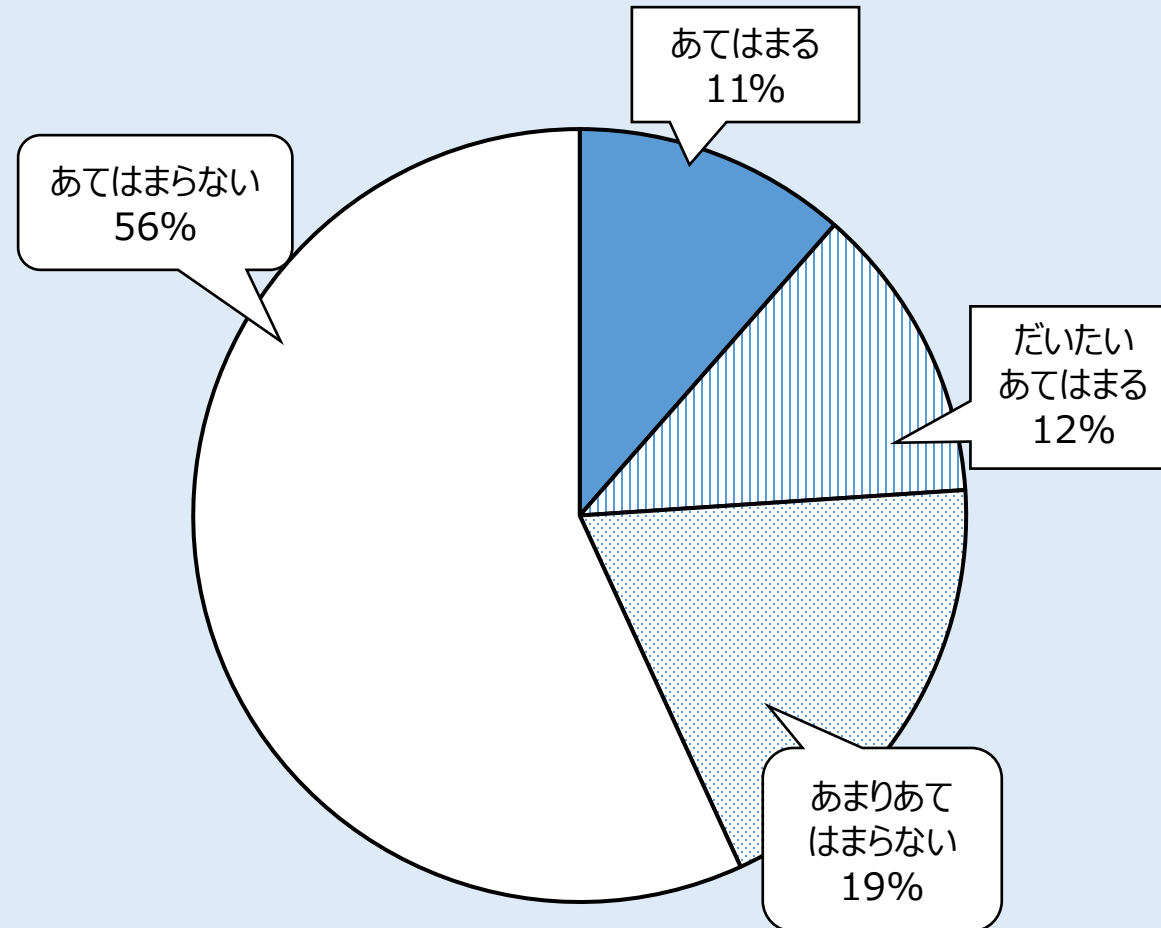


中学生

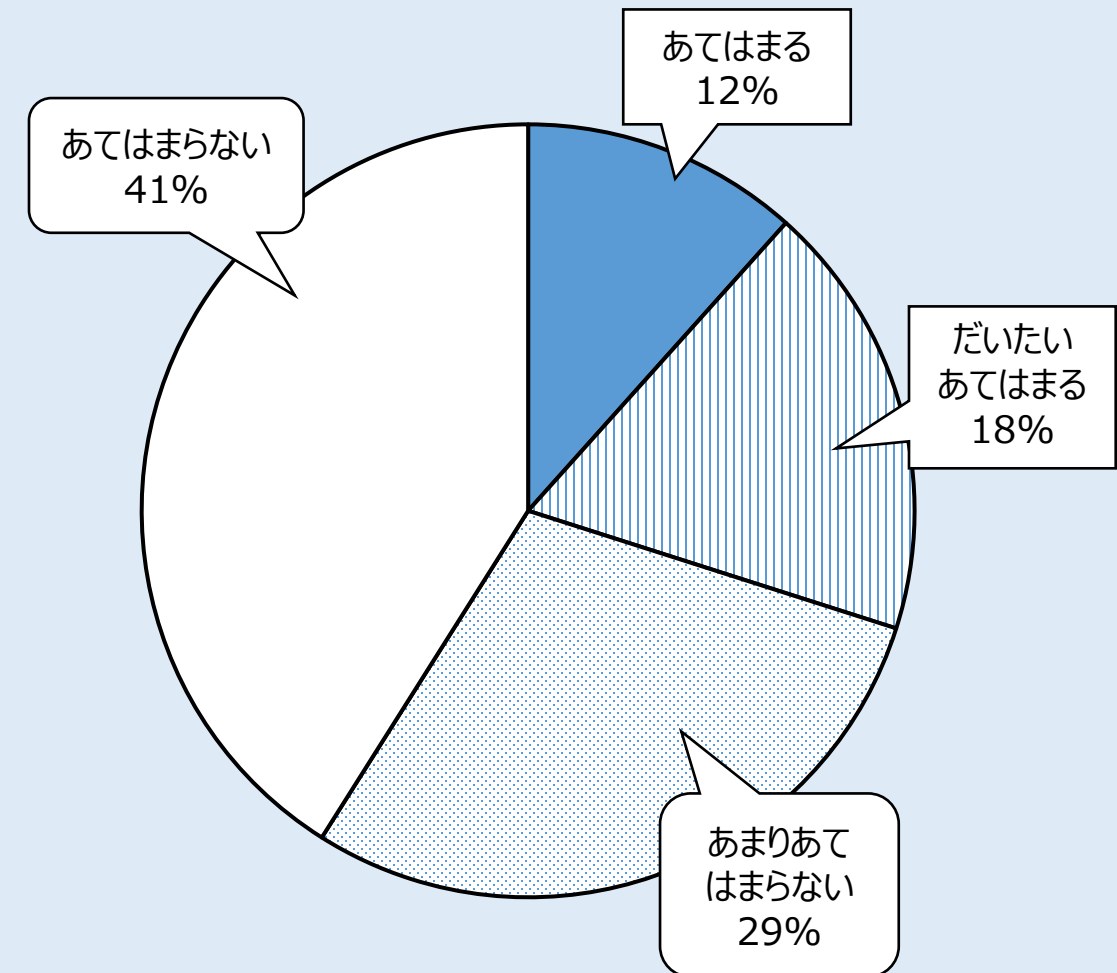


質問 1 2 常にマスクをしていないと不安である

小学生



中学生



結果のまとめ

①大項目の結果について

- ・新型コロナウイルス感染症対策の変更により子ども達のところにも大きな変化があるのではないかと懸念していましたが、1学期の実施結果の段階で、気持ちの安定度、生活の安定度ともにこの2年の傾向と大きな差は見られず、3学期の実施結果でも大きな変化はありませんでした。
- ・困ったときにSOSが出せるかどうかについては、奈良市全体では年々相談できる状態の子ども達が増えており、話す場がない、もしくは困ったときに周囲に頼れない状態の子ども達が減っているという結果になりました。学校現場における教員の相談活動が子ども達に届いている結果と考えています。

②小項目ごとの結果について

- ・3年間学期ごとにアンケートを実施してきたことで、それぞれの項目ごとの奈良市の小中学生の傾向が見えてきたと考えています。
- ・質問5や質問6において示された、何事にもやる気がおきない、体の調子が悪い状態の子ども達は、その発達年齢や現在の社会環境の中では一定の割合いるという認識を持ち、子ども達へ関わっていけたらと考えています。

③実施後の取組について

- ・アンケート調査結果と分析を前回との比較も含め市立小中学校教員へフィードバックします。
- ・個々の子ども達のアンケート結果を踏まえ、教員が声かけや日常の様子を見守っていきます。
- ・SOSを発信しにくい子ども達との信頼関係づくりのために「チーム学校」で取り組むアクションプラン、個別対応における6つの視点での取組を継続していきます。
- ・各学校でアンケートを使い、客観的指標によって子ども達への対応の方法を定期的に確認していきます。